

(熊本県立松橋高等) 学校 令和 7 年度 (2 0 2 5 年度) 学校評価表

1 学校教育目標

学校教育目標 生徒の個性を尊重し、伸ばし、一人一人の夢の実現を図る。

綱領
— 自主積極研学の道に邁進しよう
— 気節を尚び、礼儀を重んじよう
— 質実剛健を旨とし、勤労を愛しよう

校訓

「自主」「礼節」「勤労」

県教育委員会各課の本年度の教育指導の重点及び取組の方向を踏まえ、本校の「綱領」並びに「校訓」の精神を柱とし、松高スピリッツ（品性を磨き、感性を高め、徳性を養うことで、明るく生き生きとした活力あふれる生徒を育成する。）の具現化に向けた教育を実践する。

2 本年度の重点目標

1 生徒の健全育成

- (1) 生徒指導方針の共通理解及び全職員協力体制により、生徒の基本的な生活習慣を確立し、規律ある生活態度を育成する。
- (2) 挨拶の励行・整った身なりの指導に取り組み、社会人としてのマナーを育成する。
- (3) 人権尊重意識の高揚に取り組み、家族を大切にする、友人に優しくするなど他人への思いやりの気持ちを育成する。

2 基礎学力向上の推進

- (1) 教職員が、生き生きと主体的に学ぶ姿勢を持ち続ける。
- (2) 自ら課題を見つけ、解決に向けて協働して取り組む探究的な学びを推進し、教科を横断した「学び」への意欲を向上させる。
- (3) 主体的・対話的に考え抜くことで、深い学びとなる授業を創造する。
- (4) 様々な教育活動において、「学びの手段」としてのICT活用を推進する。

3 進路指導の充実

- (1) 生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導を徹底する。
- (2) 大学入試・公務員試験・就職試験などに対応できる基礎学力指導に取り組む。
- (3) 将来の自分の生活設計が見通せるような資料の提供や、教師自らの体験談を日常的に語れるHR活動に取り組む。

4 本校への入学者を増やす取組

- (1) 学校説明会の強化促進と情報発信（HP、Instagram、マスコミ等）の工夫に取り組む。
- (2) 地域の行事やボランティアへの積極的参加により、地域連携を強化する。
- (3) 松橋高校だからできる各学科の魅力づくりに取り組む。

5 組織的に動く指導體制

- (1) 松橋高校のためにどうすべきかを考えた学科間の連携強化に取り組む。
- (2) 危機管理（起こさない取組・起こった後の対応）は、「チーム松高」として組織で統一してあたり、特に初動対応は、重点的に取り組む。

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	教育方針に基づいた学校教育目標の達成及び業務改善・働き方改革	学校活性化のための特色ある教育活動の展開	教育活動の特色化及び情報発信による入学者の増加	①KSH構想のもと外部人材を活用した探究的な学びを推進し、PTA等と連携したPR企画を実施する。 ②学校通信を月1回ペースで発行する。H	B	①体験入学では、PTAの協力によるタピオカとかき氷の無料配布や多くの在校生が補助員として活躍し、中学生から好評価を得た。 ②学校通信を8回発行し、近隣の小中学校47校に

				P等の更新頻度を上げ、新しい情報を数多く発信する。		手渡しで配布した。HPの投稿数を昨年度の100件から150件に増やし、多くの情報を発信した。
		目指す生徒像 学校像の実現	①生徒が主体的に学び、考え抜く教育活動の展開 ②学校教育目標の具現化による地域から信頼される学校づくり	①生徒の興味・関心を引き出し、課題を見つけ、解決に取り組む探究的な学びを推進する。 ②地域に愛着や誇りを抱く教育活動や学校行事に外部参加を増やす活動を展開する。	B	①課題研究の中間報告や発表会を実施し、助言者から意見やアドバイスをいただき、探究的な学びを深めた。 ②「高校生道の駅弁」プロジェクトや企業とのコラボ商品の開発等、各学科の特徴を生かした取組で地域と触れ合い、地域貢献の喜びを体感した。
		働きやすく、働き甲斐のある職場環境の構築	①ICTを活用した業務の効率化 ②コミュニケーションを大切にした風通しのよい職場づくり	①学校と保護者間連絡のデジタル化によるペーパーレス化、効率化を進める。 ②職員間の報連相を推進し、丁寧な情報共有を行う。	B	①通知票の送付は、連絡アプリ「すぐーる」を活用し経費削減や効率化を図った。 ②情報共有や相談事は、できる限り対面で行うことで、職員間の意思疎通を深めることができた。
学力向上	教師の指導力向上	教師としての使命感や資質の向上	職員の自己研鑽による指導力の向上	校内研修の計画的な実施や校外研修、視察等に積極的に参加する。	B	校内研修は、放課後に実施することがほとんどであり、生徒対応の時間と重なる点が課題である。可能なものは夏休み中に行う等、平日の指導に影響しない工夫を講じる必要がある。
		「分かる」授業の工夫と確立	主体的・対話的な学びを取り入れ、生徒理解が深まる指導を行う。	学習内容や生徒の実態に応じた授業の工夫をお互いに学び合う機会を確保する。	A	週1回の教科会の設定、研究授業週間の実施、他校の研究授業や研修の案内等を通じて、機会確保を行った。
		観点別評価の推進	学習目標と成果を的確に捉え、指導と評価の一体化を図る。	①共通の成績評価シートの利用を進め、成績算出の効率化を図る。 ②評価方法やそれを踏まえた指導改善について職員間で協議する機会を設ける。	A	①評価シートを用いることで、算出の負担は軽減されている。成績確認の際にも根拠資料が同シート（類似シート）で提出されるため確認がとりやすかった。 ②全体での研修（勉強会）などは実施できていないが、各教科内で日常的に協議を行っている。
	基礎学力の向上と自主学習意欲の涵養	自主学習の定着	生徒自身が課題と向き合い目標に向けて主体的に取り組む。	朝学習の時間等、各自が主体的に学習に取り組む機会を設ける。	A	朝学習用のテキストや課題の配信を行うことで、学習に臨む環境を整えた。次年度から学習アプリが変わるため、改めて育成する生徒像を踏まえての学習計画を学年と相談していく。

<p>キャリア教育 進路指導</p>	<p>進路意識の高揚</p>	<p>3年間を見通したキャリア教育の推進</p>	<p>①卒業後の進路選択によって自分がどう生きていくかを考える取組の実践</p> <p>②社会で生きていくために必要なマナーや自分の考えを伝える力、話を聞き理解する力を習得する取組の実践</p>	<p>月1回ペースで進路だより（羅針盤）を発行、生徒・保護者に適切な情報を提供し、生徒の進路意識啓発に努める。</p> <p>【1年次】 企業見学や進路講演会、合同企業説明会等の各ガイダンスを通じて仕事や学問について学習し、キャリアナビ等を利用することで、自己を知り、進路選択を行う上での材料を見つける。出前授業では、自分が知らない進路について知ることによって進路選択の幅を広げる。</p> <p>【2年次】 進路目標の確立を目標にキャリアナビ等を利用して将来の生き方を考えさせる。学校説明会やオープンキャンパスへの参加を促すとともに、合同企業説明会や進路ガイダンスを実施することで進路目標を明確にする。インターンシップでは、教師の支援の下に生徒が実習先にアポイントを取り、事前打ち合わせから実習、事後指導まで取り組むことで適切な職業観を育む。出前授業では、自分が知らない進路について知ることによって進路選択の幅を広げる。</p> <p>【3年次】 卒業生を囲む会や企業懇談会等で、より詳細な将来の生き方を選択できるように促すことで、進路実現を目指す。</p>	<p>A</p> <p>進路だより（羅針盤）を1月時点で3回発行し、「すぐーる」で配信した。</p> <p>【1年次】 従来実施してきた保護者・生徒進路説明会（11月）、職業体験フェスタ（12月）に加え、企業見学（9月）を行った。3月の宇城市「合同企業説明会」と合わせて年間のキャリア教育の流れを作ることができた。</p> <p>【2年次】 今年度全員が3日間のインターンシップを行った。参加した生徒、職員、受入先企業ともに肯定的な意見が多かった。11月の保護者・生徒進路学習会では、企業の人事担当者による講話や12月の職業体験フェスタ、3月の宇城市「合同企業説明会」と年間を通してキャリア意識を高める取組が実施できた。</p> <p>【3年次】 1学期のキャリアサポーター一面談と卒業生を囲む会等進路実現に向けた意識を高める取組ができた。就職は1回目3名が不調に終わったが、最終的に全員が内定を掴んだ。11月と12月に実施した内定者の指導では、くまもとキャリアサポーターの講話を中心に高校生から社会人への橋渡しができた。</p>
------------------------	----------------	--------------------------	---	--	---

	進路目標の達成	進学や就職に向けた早期段階からの取組	①2年生の3学期までに進学か就職かを概ね決定できる取組の実践 ②3年生の進路実現	①2年生2学期までの様々な進路の取組で進路目標を確立し、2年生3学期の就職ガイダンスに就職希望者のみならず将来は就職する進学希望者にも目的を持って参加させる。合同企業説明会で企業の話をして直接聞き、具体的な企業、業種、職種及び進学先を絞り込む一助とする。 ②3年生では、各選考試験に向け、小論文指導や面接指導、個別学習指導を行い、進路実現につなげる。	A	①第2回進路希望調査の結果は進学18名、就職15名、未定8名。進路行事や面談を通して、未定だけでなく進学・就職を決めた生徒にもより具体的な進路目標を定めさせるように取り組む。 ②就職希望者は、全員内定を得た。進学希望者は、それぞれの目標を確立し進路実現に向けて取り組んだ。
生徒指導	マナーの涵養	整った制服の着用、元気で明るい挨拶、正しい言葉遣いができる	校内外を問わず正しく制服を着用し、明るい挨拶ができる。	日常的な指導と定期的な服装頭髪指導により、身だしなみの意識を涵養する。	B	日常的な指導を職員との面談を重視する方法に変更したが、大きな混乱は見られなかった。頭髪については、一部の生徒の指導に苦慮する場面があった。
	交通指導の充実	交通安全呼びかけ運動	①交通安全の日を生かしながら、交通委員が全校生徒に対し、交通安全の呼びかけを行う。 ②ながらスマホ根絶等、マナー向上を訴える。	①交通安全の日に街頭で教師と交通委員で啓発活動を行う。 ②自転車通学生にはヘルメットの正しい着用と交通ルールを守る啓発を行う。原付通学生は、交通ルールはもちろん、天候や道路状況、車両の特性を理解し、運転するように適宜指導する。	B	①交通委員が学期に1回、登校時に交通安全運動を実施した。今年度の交通事故は4件で、昨年度より1件減少した。生徒が自転車で自動車と接触し、警察に通報しなかった事案が2件あり課題である。 ②令和8年度から自転車利用者を対象に青切符(交通反則通告制度)が導入されることから、違反行為についての確認や交通ルール遵守の徹底を指導した。
		二重ロックの徹底	全校生徒への呼びかけ運動を継続し、2重ロックの施錠率を90%以上にする。	毎月、本校が定める交通安全の日に点検を行い、啓発活動に努める。点検しない日の施錠率を上げる呼び掛けをする。	B	毎月点検を実施し、啓発活動に取り組んだが、平均の施錠率は約80%で、目標数値には届かなかった。
	生徒会活動の活性化	生徒会の主体的な活動の推進	生徒会を中心に松高フェスタの企画・運営及び校則の見直しに取り組む。	企画・運営のために定期的に話し合う時間を設ける。その際、生徒のみで話し合い、担当職員は助言する形で進める。	A	学校行事では、生徒会執行部を中心に生徒が主体的に取り組む、充実した活動ができた。アンケート結果からも生徒自身や保護者の評価が高かった。

人権教育の推進	人権意識の涵養と差別意識の解消	教職員の研修の充実と推進体制の機能強化	人権教育主任を中心に、校内外研修の充実を図る。	①人権教育推進委員会を中心に、人権学習LHRや人権行事を実施する。 ②校外研修に積極的に参加し、成果を復講する。レポート研修を実施する。	B	①人権教育推進委員会を週1回開催し、行事やLHRの内容を十分検討することができ、取組の質の向上を図ることができた。 ②校内研修を年間3回実施した。3回目に全員がレポートを作成し、意見交換を行った。校外研修は、宇城地区人権教育研究大会と宇城学校人権集会に多くの職員が参加した。
		生徒の人権学習推進	①全教育活動において、人権教育の視点を持ち取り組む。 ②人権教育LHR、人権週間における取組みを計画的に行う。	①人権学習LHRを通し、身近な人権問題や同和問題などの社会的課題に至るまで学習し、反差別の実践的な態度を養う。 ②自分とは違った考え方を尊重し、相手を大切に思いやりを持つ。	B	①全学年のLHRにおいて同和問題を取り上げて学習した。 ②様々な人権問題に焦点を当て考察し、自らの中にある偏見や差別意識に気づき人権感覚を涵養する試みを行った。
	特別な支援を要する生徒に応じた支援	職員の理解と意識の向上	特別支援教育・高校通級(LST)・インクルーシブ教育システム、学校でのUD化について理解を深め、スキルの向上を目指す。	①学びのUD化の重点目標を設定し振り返りの機会を設ける。 ②LST授業への全教師参加を目的に各教師に参加の割当てを行い、LSTでの授業内容や生徒の様子について理解を促進する。 ③松橋高校での「スタンダード」を作成し、職員間で支援の方法について共有することで理解を深める。また、個別の指導計画をもとに教科担当者会を実施し、各生徒に応じた手立てを共有する。	B	①年度当初にUD化教具の使用推進や具体的なUD化の方法を示した。個別の評価時期に合わせ、職員に振り返り(自己チェック)をする機会を設けた。 ②2学期から職員にLSTの授業参加日を振り分けた。参観できなかった職員は、別日に設定した。 ③年度当初の職員会議で本校のスタンダードとして、特別支援教育や教育相談についての詳細資料を共有した。学年ごとに教科担当者会を開き、特別支援教育の巡回相談員にも参加してもらい、助言を得ることができた。

						<p>①特別支援教育コーディネーターが面談に同席し、合理的な配慮についての説明や支援策の提案ができた。教科担当者会で個別の指導計画の作成や情報を共有することで、担任・副担任だけでなく、各教科担当者にも生徒の状況や支援を必要とする生徒の観察及び手立ての共有ができた。</p> <p>②総合支援推進会議を週1回開催し、生徒の支援策検討や専門家へ繋ぐことができた。生徒支援推進委員会・特別支援推進委員会では、LSTの受講に関する制度、評価等を主に議論した。日々変化する生徒情報の共有は、メッセージ等を利用して細やかに実施した。必要時にはSC、SSWの協力を得ながら専門機関や医療機関との連携を図った。</p> <p>③特別支援教育支援員が配置され、教室移動の支援や昼休み中の見守りを含め、きめ細かな支援ができた。生徒支援の一つとして教室復帰を前提とした別室利用の利用申請はあったものの短期間の対応で、今後予想される課題を検討していく必要がある。</p>
		支援を要する生徒への個に応じた適切な指導の充実	<p>①支援を要する生徒の理解を深め、個に応じた支援を推進する。</p> <p>②生徒、保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。</p> <p>③インクルーシブ教育システムの構築に向けた取り組みを行う。</p>	<p>①新入生について、第1回生徒理解研修や熊本県が定めるガイドラインに沿って、個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成し、教科担当者会において共有及び半期ごとに支援の評価を行う。</p> <p>②、③週1回、総合支援推進室会議を開催し、生徒の情報共有・支援策の検討を行う。生徒本人や保護者から合理的な配慮についての申し出があった際には、校内で検討し、特別支援教育支援員が学習支援や健康・安全確保等を行う。また、必要に応じて生徒や保護者が県派遣の専門家（SC、SSW）の支援を受けることができるようにする。</p>	A	
いじめの防止等	命を大切にする心を育む指導	自他の生命を尊重する心の育成	<p>①心のきずなを深める月間の取り組みを行う。</p> <p>②ストレス対処教育を全学年で行う。</p>	<p>①月間の周知と涵養、通信の発行、詩や書籍の紹介、標語の作成など「心のきずなを深める」ために様々な取り組みを実施する。</p> <p>②1年生「私の四面鏡」「二者択一」、2年生「さわやかな自己主張」「月からの脱出」、3年生「アンガーマネジメント」を実施する。</p>	B	<p>①心のきずなを深める月間に実施の呼びかけ、通信の掲示、詩の紹介、標語作成（人権推進委員会と連携）を企画し、月間の周知を図った。</p> <p>②ストレス対処教育では、より本校生の状況に合うように教材を改訂した。SCに資料提供や動画作成を協力してもらった。</p>
	いじめの未然防止	生徒・職員・保護者のいじめ防止に対する意識の向上	<p>①集会や講演会等を積極的に行い、いじめゼロを目指す。</p> <p>②校内のいじめ根絶に向けた体制の充実を図り、学校内の言語環境を整える。</p>	<p>①講演会等で生徒の自己肯定感を高め、「いじめをしない。いじめをさせない。いじめに負けない」集団づくりに取り組む。</p> <p>②現代社会に起きた事件等を考える時間や生徒達と向き合う時間を確保する。</p>	B	<p>①人権バンドの演奏と講演、LHRで人権学習を実施し、人権意識を高める取り組みを行った。</p> <p>②職員の校内研修で、本県がいじめ重大事態の報告書を読み合わせ、対応のポイントを確認した。</p>

	いじめの早期発見	いじめ早期発見に向けた取組の充実	①心のアンケート等を活用し、いじめの早期発見に努める。 ②いじめの通報サイトや相談機関を生徒保護者に周知する。	①定期的にアンケートを実施し、情報共有を図り、いじめの早期発見・早期解決に努める。 ②初期対応を迅速に行うとともに、SCや児童相談書等の外部機関と緊密に連携する。	B	①スクールサインや心のアンケートによるいじめの訴え、いじりや陰口を言う人がいるという生徒の声に迅速に対応した。 ②いじめは、アンケートだけでなく、担任との面談、保健室や生徒からの情報等、様々なルートで発見し早期に対応することができた。
地域連携 コミュニティ・スクール	地域との連携	地域ボランティア活動への参加	宇城市や各地区の実行委員会と連携し、生徒に情報を発信する。	各実行委員会等と連携を図り、企画やボランティア活動へ積極的に参加する。	B	ボランティアには、15企画、延べ98名、実人数46名の生徒が参加した。参加者の固定化や参加に消極的な生徒もいるので、社会や地域貢献についての啓発が課題である。
		地域貢献活動への参加	各市町村や地域の方々と連携を図り、生徒へ情報を発信する。	地域のイベントに積極的に参加し、本校の防災の学びを発信する。	B	宇土・三角の祭り、本校文化祭やイオンモール宇城でのイベントに自衛隊とともに参加し、防災情報の発信や啓発を行った。
	学校運営協議会の開催	学校運営の改善及び生徒の健全育成	特色ある教育活動を展開する。	学校運営協議会委員からの助言や御意見を聞き、特色ある学校づくりを推進する。	B	意見を職員間で共有し、学校運営に反映させることで、地域と共にある学校づくりに取り組んだ。

4 学校関係者評価

【学校経営】

- ・体験入学でPTAの協力によるタピオカとカキ氷の配布は、大変好評だった。更に中学生が興味を持つような情報発信をお願いしたい。
- ・広報活動は、教職員の自己評価の最上位で取組の成果である。保護者の評価も高い。今後、発信面の深掘りにも取り組んでほしい。
- ・ホームページを見ると、生徒たちが学校でどのように過ごしているのかが良く伝わる。地域とのつながりを感じられるプロジェクトや企業とのコラボレーションは、生徒に大きな達成感や自己有用感をもたらしている。これらの経験が生徒一人一人の夢の実現へと更につながっていくことを期待する。
- ・学校通信を年間8回も発行し、小中学校47校に手渡しで配布したり、HPの投稿数も年間150件としたり等、情報発信をととても丁寧にされている。

【学力向上】

- ・自主学習ができる生徒とできない生徒の差が大きいように感じる。特に進学を希望する生徒には、意識づけが必要なので、朝の時間等の活用をしてほしい。
- ・教員の指導力向上について、工夫・改善が見られ、非常に良い。他方、生徒の学力向上について、インプットはあるが、アウトプットが記載されていない。KGI（重要目標達成指標）に対し、どの程度成果があったのか把握できない。KPI（重要業績評価指標）を設定し、評価する必要がある。
- ・学校評価アンケートの生徒の回答では、学習評価に対して肯定的な意見が多く見られた。これは、教師との信頼関係が築かれていることに加え、生徒自身が納得し、次の学習へつながっていることがうかがえる。
- ・職員の負担軽減のために業務整理を求められる中、研究授業週間を設け、指導力向上に努められていることに感服する。その努力は、生徒たちの基礎学力向上に確実につながるものと思う。

【キャリア教育（進路指導）】

- ・早期から企業見学や進路説明会に取り組むことで、どのような選択肢や手段があるのかが考えやすい。
- ・インターンシップの拡大等、職業観の醸成に寄与する取組が評価できる。
- ・就職、進学いずれにおいても、生徒が進路を決定するまでの過程をより具体的に紹介してもらえると良かった。また、卒業生の声や学校での学び、思い出等を取り上げ、生徒がどのように将来を考え、選択していったのかを教えてもらおうと、中学生や地域にとっても大きな参考になるのではないかと。
- ・進路指導の計画的な取組が確実に実を結んでいると感じる。併設する松橋西支援学校高等部とも情報交換をすることで、両校の進路指導の一層の充実につながると思う。

【生徒指導】

- ・自転車のヘルメット着用が定着していて良かった。
- ・日頃、校外で生徒を目にするが、頭髪や服装、挨拶、交通マナー等で気になる生徒は見かけないため、学校の指導の成果だと評価している。
- ・生徒会を中心に、行事等の際には松橋西支援学校高等部の生徒と様々なかかわりを持たせている。より一層お互いの理解が深まるよう取組を続けてもらいたい。

【人権教育】

- ・今もなくなる差別に、自分自身の行動を振り返り、高校生に人権について伝えていきたい。
- ・LST（通級）の授業を全教師が参観したことは、非常に評価できる。すべての教育の出発点と言われる特別支援教育の視点が更に浸透することを期待する。
- ・LST（通級）による指導及び特別な配慮を要する生徒への指導に真摯に取り組んでいることが伝わった。

【いじめの防止】

- ・何かあったときに相談できる場所を生徒に定期的に伝えてほしい。
- ・早期発見、早期解決のために相談窓口の数はもとより、相談体制や相談しやすい環境づくりの充実を期待する。
- ・スクールサインや心のアンケート、担任との面談や様々な情報から、いじりや陰口等への迅速な対応、安全安心を目指す日ごろからの学校の姿勢や備えができていたと感じた。

【地域連携（コミュニティ・スクール）】

- ・ボランティア活動に参加する生徒が増えるように、情報発信を続けてほしい。消極的な生徒には、なぜ参加しないのか聞いてみる必要がある。
- ・ボランティアの発掘により、ラインナップの拡大に取り組んでみたらどうか。
- ・延べ98人もの生徒がボランティア活動に参加している等、地域と学校のつながりを大切にしていると感じた。

【その他】

- ・現状を改善しようとする工夫と実践に取り組んでいることが、学校評価表から見て取れる。地域の学校として、地に根差す活動に傾注していることが最も評価するところである。
- ・地域の中学生が松橋高校に進学し、地域で堂々と活躍している姿を見ることが大変うれしい。地元の公立高校が更に活性化し、地域の未来を担う存在として発展していくことを期待する。

5 総合評価

・各取組の評価を数値化するために、学校評価アンケート（生徒・保護者・職員）を実施した。1～4段階の評価で、平均3.0以上をA、2.5以上～3.0未満をB、2.0以上～2.5未満をCとした。生徒の自己評価は、15項目中14項目がA評価で概ね高評価であったが、ボランティア活動や地域貢献活動への参加が唯一C評価であった。来年度に向けた具体的な方策をしっかりと協議する必要がある。保護者はすべてA評価で、教職員は2項目がB評価、その他はすべてA評価で、概ね良好な結果となった。この結果を踏まえ、各部署で協議し、学校評価表の評価（ABC）及び成果と課題を作成した。その評価結果は、Aが7項目、Bが16項目で概ね目標を達成できたと考える。特にA評価とした「分かる授業の工夫と確立」「観点別評価の推進」「自主学習の定着」「3年間を見通したキャリア教育の推進」「進学や就職に向けた早期段階からの取組」「生徒会の主值的な活動の推進」「支援を要する生徒への個に応じた適切な指導の充実」は、計画的な取組やきめ細かな対応の成果であると捉えている。この学校評価表の結果を学校全体で共有し、各部署の年度末反省や次年度に向けた具体的な取組に反映させていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

- ・次年度も引き続き、熊本スーパーハイスクール構想（KSH）クリエイティブハイスクール指定校として、3学科（普通科、家政科、情報処理科）が協働して、地元の食材を使ったレシピの開発や販売実習、アンケート調査等、本校の特色を生かした魅力ある学校づくりに取り組む。
- ・広報活動においては、次年度もホームページ、学校通信、Instagramを中心に情報を発信する。更に学校関係者評価でもご指摘があった発信の深堀りや質の向上を目指し、取り組んでいきたい。
- ・ボランティア活動や地域貢献活動について、保護者と職員はよく情報を発信しているという評価だが、参加には消極的な生徒が多い。授業や集会を通じて意義を理解させることや短時間の活動で時間的・心理的な負担を軽減し、参加のハードルを下げること等、学校全体で生徒の意識改革に取り組む。